
第 8 章 APW / APPW モードの構成

章の概要

この章では、IBM Infoprint 250 印刷装置がサポートしている APW/APPW モードについて紹介します。

ここには、以下の情報が含まれています。

- 111ページの『データストリームの種類』
- 112ページの『特徴』
- 113ページの『接続機構』
- 113ページの『操作パネル設定』

データストリームの種類

Infoprint 250 は、以下のデータストリームをサポートしています。

- IPDS
- SCS

ここでは、SCS データストリームについて解説します。SCS データストリームは、2 つのコマンド・セットから構成されています。

- APW モード (IBM 5400 プリンター・エミュレーション)
- APPW モード (IBM 5337 プリンター・エミュレーション)

注：使用環境に合わせて、適切なモードを選択する必要があります。

特徴

以下に、APW/APPW モードの特徴を示します。

表 30. 特徴

機能	特徴
システム	AS/400
接続機構	イーサネット, トークンリング (TCP/IP)
印字解像度	480 dpi (ドット/インチ)
文字スペース	DBCS フォント: 5, 6, 20/3, 7.5, 10 ¹ , 15 ¹ CPI SBCS フォント: 10, 12, 40/3, 15, 18 ² , 20 ¹ CPI
行スペース	2 ¹ , 3 ¹ , 4, 6, 7.5, 8, 10 ¹ , 15 ¹
イメージデータ ¹	240dpi 非圧縮データおよび圧縮データ (MMR 圧縮)
罫線	細線, 太線, 点線, 二重線, 二重太線 ² , 二重点線 ²
内蔵フォント	平成タイプ ¹ 漢字明朝アウトライン・フォント 平成タイプ ¹ 漢字明朝ゴシック・アウトライン・フォント IBM 字形 (715 文字) - 明朝体, ゴシック体 SBCS アウトライン・フォント 明朝 12 cpi, 明朝 10 cpi, ゴシック 10 cpi, サンプル OCR-B, サンプル OCR-A, 縦書き, コンデンスト, 上付, 下付, クーリエ 10 cpi, ゴシック 12 cpi, エリート 12 cpi, ゴシック・イタリック 12 cpi, エリート・イタリック 12 cpi, ゴシック 15 cpi, ゴシック 20 cpi
5337 フォント ¹	APPW (5337 データストリーム)モード, '5337 フォント'モード選択時 240 dpi ビットマップ・フォント DBCS フォント 明朝 24 x 24, 明朝 32 x 32, 明朝 40 x 40, ゴシック 16 x 16, ゴシック 24 x 30 SBCS フォント ゴシック 10 cpi, クーリエ, サンプル OCR-B, サンプル OCR-A, エリート, ゴシック 12 cpi, ゴシック・イタリック, エリート・イタリック, ゴシック 15 cpi, ゴシック 20 cpi (明朝 10 cpi と明朝 12 cpi を選択したときは、ゴシック 10 cpi で印刷されます)
バーコード	7 種類 (Code39 ² , NW7 ² , JAN-標準, JAN-短縮, Interleaved 2 of 5 ² , Industrial 2 of 5 ² , 郵便カスタマーバーコード ²)
文字拡大・縮小	1/2 x 1/2, 1(横) x 2(縦), 2(横) x 1(縦), 2 x 2, 2(横) x 4(縦), 4(横) x 2(縦), 3 x 3 ² , 4 x 4
文字回転	0, 270 度 (270 度回転は縦書き用)
ページの回転 ¹	0, 90 度
ユーザー定義文字	APW モード 24 x 24 (180 dpi) は印刷時に 480 dpi に変換 APPW モード 24 x 24, 32 x 32, 40 x 40 (240 dpi) は印刷時に 480 dpi に変換
フォームオーバーレイ ¹	8 種類 (最大)
用紙サイズ	連続紙 幅: 8.0 インチ - 18.0 インチ 長さ: 7.0 インチ - 14.0 インチ
印刷幅	1 文字幅 (CPI に依存) 最小値, 14.4 インチ (最大) - APPW モード (5337 データストリーム) 13.6 インチ (最大) - APW モード (5400 データストリーム)

¹: APPW モードのみ

²: APW モードのみ

接続機構

表 31. 接続機構とデータストリームの関係

接続機構	プロトコル	データストリーム
トークンリング	SNA LU 6.2 ^{*1}	IPDS
トークンリング	TCP/IP	IPDS, SCS
イーサネット	TCP/IP	IPDS, SCS
注: ^(*) リリース 2.		

操作パネル設定

この章では、APW/APPW モードの操作パネルの設定について説明します。操作パネルの基本的な操作については、18ページの「第3章 操作パネル」を参照してください。

- 『メニューモード』

メニューモード

APW/APPW モードが選択された印刷装置では、メニューの構成が変わります。APW/APPW の設定項目を表示し、選択することができます。

メニューの構成については、23ページの「メニューモード」を参照してください。

操作上の注意と問題判別

この章では、APW/APPW モード固有のいくつかの仕様および操作上の留意事項について説明します。また、エラー表示について説明しています。

下記の事項が含まれています。

- 114ページの『留意事項について』
- 116ページの『エラーコード』

留意事項について

- ユーザー定義文字

ユーザー定義文字を印刷する場合は、事前にプリンターへのロードが必要です。ユーザー定義文字ロードユーティリティ(弊社ホームページよりダウンロード可能)を使用して、プリンターに事前にダウンロードしてください。

APPW モード: 24 x 24, 32 x 32, 40 x 40

APW モード: 32 x 32 (24 x 24)

注: APW モードで 32 x 32 のユーザー定義文字がロードされていない状態で、かつ 24 x 24 のユーザー定義文字がロードされているときは、プリンターが 24 x 24 から 32 x 32 に自動的に解像度を変換します。この場合は、印字品質は悪くなりますので、なるべく 32 x 32 でデザインしたものを用意してください。

- 印刷ジョブの取り扱い

印刷単位は、物理ページ毎になります。従って、ジョブの終了位置が物理ページの境界を越える場合は、次のページの先頭まで用紙を送ります。そのため、物理ページと論理ページが一致しない場合や、物理ページの切れ目をまたぐ印刷パターンが存在した場合は、ジョブの切れ目に余分な空白が入ります。これを避けるためには、論理ページと物理ページが一致するような帳票設計を行ってください。

- システム構成

構成や設定を変更したときは、再始動もしくはジョブ開始時に有効になります。

セッションが切れた場合(“VARY OFF”を実行したときなど)は、プリンターからの再接続が必要です。Telnet5250の構成パラメーターを「**使用可能**」に設定してください。

- Twinax 接続との動作の違い

エラーが発生した場合の処理の方法が若干異なる場合があります。

たとえば、用紙切れが発生した場合、NOT READY が表示されることがあります。このときは、プリンターのエラーを回復したにもかかわらず、再度、用紙切れエラーが表示されます。このような現象が発生した場合でも、エラー回復処理はプリンターで行いますので AS/400 上では、IGNORE で処理してください。

- エラー時の動作について
 1. SCS コマンドエラー , SCS パラメーターエラー発生時の動作

このエラーが発生した場合、プリンターは AS/400 にエラーを通知し、LCD ディスプレイ上にエラーを表示して停止します。このとき「印刷」スイッチを押して処理を再開すると、プリンターはエラーが発生したジョブの最後までデータを読み捨てます。そのため出力待ち行列上でジョブは保留されずに正常終了となります。保留させる必要がある場合は、エラーが表示されている間に保留操作を行ってください。
 2. グラフィック・エラー（文字コードエラー）発生時の動作

このエラーが発生した場合、プリンターは AS/400 にエラーを通知し、LCD ディスプレイ上にエラーを表示して停止します。このとき「印刷」スイッチを押して処理を再開すると、プリンターはエラーが発生した部分に置き換え文字を印刷して処理を終了します。ジョブを取り消したい場合は、エラー表示中に出力待ち行列上のジョブを保留するか、プリンターの取り消しスイッチを操作してください。
- 刷解像度の違いによる印刷出力の違い

プリンターの印刷解像度の違いにより、IBM 5337 および 5400 の印刷結果と若干異なる場合があります。特に、IBM 5400 と比較した場合、解像度が異なるため罫線やバーコード等では、長さや太さに多少の違いが出てくる場合があります。一般的に、インパクト・プリンターはバーが太めに印刷されるため、その特性に合わせたパラメーターになっている場合が多く、そのパラメーターで Infoprint 250 で印刷したときには読み取り特性に影響が出る場合があります。その際は、プリンターの特性に合うように、パラメーターの調整を行ってください。
- IBM 5337, 5400 との仕様の違い

付録参照。

APW/APPW エラーコード

ここでは、APW/APPW に関するエラーコードを説明しています。本体のエラーコードについては、66ページの『エラーコード』を参照してください。

表 32. APW/APPW エラーコード

エラーコード	説明	操作員の処置
0801	SCS コマンド エラー	1. プリンターを再起動した後に、再度印刷を行ってください。 2. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの操作員、もしくは、プログラマーに報告して下さい。
0802	SCS パラメーター エラー	
0803	SCS モジデータ エラー	
0804	SCS ベルコマンド 受信	
8101	ホストシステムで構成されている仮想装置の機能の一部に、実行できないものがあります。	1. ホストシステムで構成されている仮想装置を再構成して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に問題を報告して下さい。 詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPI8901 を参照して下さい。
8104	ホストシステムが、前のリリースのソフトウェアを使用しています。プリンターを接続できません。	1. ホストシステムの管理者に報告し、ホストシステムを現行の IBM ソフトウェアに更新して下さい。 詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPI8904 を参照して下さい。
8106	ホストシステムへ自動サイン・オンを試みましたが、正常に行なわれませんでした。ホストシステムがサイン・オンを拒否したか、あるいは自動サイン・オン機能をサポートしていないかのどちらかです。	1. ホストシステムの管理者に報告して下さい。 詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPI8906 を参照して下さい。
8201	telnet5250 接続エラー	1. ホストシステム管理者、もしくは、ネットワーク管理者に報告し、プリンターの telnet5250 構成を再確認して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーが存在する場合には、プリンターを再起動した後に、再接続を行ってください。 4. プリンターのデバイス名を変更し、プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 エラーが表示されずにホストシステムと接続可能な場合には、ホストシステム管理者に報告し、以下の処理を行ってください。 (1) プリンターの操作パネルから、プリンターの telnet5250 を無効にして下さい (2)ホストシステムで、接続されなかった印刷装置の書き出しプログラムを停止して下さい (3)ホストシステムで、接続されなかったプリンターの装置記述を削除して下さい (4)ホストシステムから、プリンターとホスト間の TCP/IP 接続を、切断して下さい (5)プリンターの操作パネルから、プリンターのデバイス名を戻し、telnet5250 を再度有効にして下さい 5. エラーがまだ存在する場合は、エラーコードをメモして、保守を依頼して下さい。
8301	telnet5250 プログラムエラー	

8702	装置記述が見つかりませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムで、装置記述処理 (WRKDEVD) コマンドを使用して、どの装置が存在しているかを調べてください。 2. プリンターの装置記述名を変更するか、またはホストシステムで装置記述を作成してから、telnet5250 を有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF2702 を参照して下さい。</p>
8703	制御装置記述が存在しません	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムで制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用し、どの制御装置が存在しているかを調べてください。 2. プリンターで指定している制御装置記述名を変更するか、あるいはプリンターで指定した名前の制御装置記述をホストシステムに作成して下さい。 3. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 4. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF2703 を参照して下さい。</p>
8777	ホストシステムは装置記述に損傷を検出しました	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリンターが使用している装置記述名をホストシステムから削除してください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF2777 を参照して下さい。</p>
8901	指定された仮想装置名は、オンへの構成変更保留状態にしてからでなければ、パス・スルーで使用することができません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムの仮想装置をオンに構成変更して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8901 を参照して下さい。</p> <p>・ホストシステムでは、装置をパス・スルーで使用する前にオンに構成変更する必要があります。ホストシステムが AS/400 の場合には、 VRYCFG コマンドを使用して、装置をオンに構成変更してください。</p>
8902	仮想装置は、他のジョブによって使用中です。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定された仮想装置は現在使用することができません。現在これを使用しているジョブが終了するまで待つか、あるいは現在他のジョブによって使用中でない別の仮想装置をプリンターで指定し、telnet5250 を再度有効にしてください。 2. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8902 を参照して下さい。</p>

8903	指定された仮想装置名 (VRTDEV パラメーター) は、パス・スルー用に正しく構成されていません。装置が仮想装置でないか、装置タイプが正しい仮想装置タイプとしてパス・スルーによって認識されていないか、あるいは装置が仮想制御装置に接続されていません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムの VRTDEV パラメーターを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8903 を参照して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 装置がパス・スルー用に正しくない理由を調べるためには、装置記述表示 (DSPDEV) コマンドを使用して下さい。装置名が正しい仮想装置であることが確実な場合には、装置記述削除 (DLTDEV) コマンドを使用し、その後で表示装置記述作成 (CRTDEVSP) コマンドを使用して、仮想制御装置に接続している仮想装置を作成し直して下さい。
8906	ホストシステムでのパス・スルーの開始が正常に実行されませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 2. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8906 を参照して下さい。</p>
8907	ホストシステムで内部通信障害が検出されました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. エラーの原因を調べるために、ホストシステムで、次のジョブ・ログの前にリストされたメッセージを参照し、エラーを訂正して下さい。 <p>(1) ローカルまたは遠隔システムの QSYSOPR メッセージ待ち行列。 (2) ローカルまたは遠隔システムのジョブ・ログ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8907 を参照して下さい。</p>
8910	指定された制御装置名がホストシステムでは、仮想ワークステーション制御機構として記述されていません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリンターで指定している制御装置名を訂正して、telnet5250 を再度有効にして下さい。 2. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8910 を参照して下さい。</p>
8916	次の理由のいずれかのために、選択した仮想装置がホストシステムで正常に実行されませんでした。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 指定された仮想装置タイプが使用可能でない。 ■ 指定された仮想装置が見つからなかった。 ■ 指定された仮想装置が仮想制御装置に接続されていなかった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムのジョブ・ログを参照し、エラーを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8916 を参照して下さい。</p>
8917	ホストシステムでの、仮想制御装置または仮想装置が認可されていません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステム管理者から権限を貰ってください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8917 を参照して下さい。</p>
8918	パス・スルー・ジョブが、取り消されました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリンターの telnet5250 を再度有効にして下さい。 2. 再び問題が起こった場合には、ユーザーのパス・スルー・ジョブが取り消されたかどうかを調べるためにホストシステムの操作員に連絡してください。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8918 を参照して下さい。</p>

8920	ホストシステムの装置記述 に内部的な障害があり、それが部分的損傷の原因となっています。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムで、プリンターの仮想装置をオフに構成変更してから再びオンに構成変更してください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8920 を参照して下さい。</p>
8921	パス・スルーがホストシステムの装置を使用している時に、APPC 障害が起きました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. エラーの原因を調べるために、ホストシステムで、前にジョブ・ログにリストされたメッセージを参照し、エラーを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8921 を参照して下さい。</p>
8922	ホストシステムから内部拡張プログラム間通信 (APPC) システム・ネットワーク否定応答を受け取りました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムにメッセージ CPF1269 がある場合には、これを参照して、提供される応答コードと関連した正確な原因と回復手順を調べてください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8922 を参照して下さい。</p>
8923	ホストシステムで受け取ったパス・スルー・データ・ストリームにエラーがあります。	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 2. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8923 を参照して下さい。</p>
8925	ホストシステムでの装置記述構成時に、エラーが起きました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムのジョブ・ログのメッセージを参照して、エラーを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8925 を参照して下さい。</p>
8928	ホストシステムでの装置記述を変更しようとした時に、エラーが起きました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムのジョブ・ログのメッセージを参照して、エラーを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8928 を参照して下さい。</p>
8929	ホストシステムで装置をオンに構成変更することができなかった。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムのジョブ・ログのメッセージを参照して、エラーを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8929 を参照して下さい。</p>
8930	ホストシステムの仮想印刷装置の作成に使用するメッセージ待ち行列は、仮想表示装置がまだ作成されていないので存在していません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムのジョブ・ログのメッセージを参照して、エラーを訂正して下さい。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8930 を参照して下さい。</p>

8934	ホストシステムが受け取ったセッション・データは、WSF/36用です。セッションは取り消されました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しくないセッション・プロファイルが使用されている場合には、要求をやり直してください。そうでない場合には、セッション・プロファイルを変更してください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8934 を参照して下さい。</p>
8935	ホストシステムは、パス・スルー・セッションを開始する試みを受け入れません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムがパス・スルー・セッションを受け入れるはずであると考えられる場合には、ホストシステムの管理者に連絡して、QRMTSIGN システム値を変更して貰ってください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8935 を参照して下さい。</p>
8936	ホストシステムが機密保護上の理由から、パス・スルー要求を拒否しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1.ホストシステムの管理者に報告し、パス・スルー要求を許可するように構成をチェックして下さい。 2.プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3.エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8936 を参照して下さい。</p>
8937	ホストシステムが自動サイン・オンの試みを拒否しました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. パス・スルーを使用して自動サイン・オンが可能かどうかであると考えられる場合には、ホストシステムの管理者に連絡してください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8937 を参照して下さい。</p>
8940	<p>ホストシステムは仮想装置を自動的に選択することができません。これは、次の理由の1つによって起こっている可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 古いソフトウェア・リリースの S/38 または AS/400 システムであるために、受動システムが仮想装置の自動選択をサポートしていません。 ■ QAUTOVRT システム値に指定された限界のために、受動側 AS/400 システムはこれ以上仮想装置を自動的に構成することができません。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストシステムの管理者に報告し、次の1つまたは複数を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> -- 自動選択仮想装置の許容数 (QAUTOVRT システム値)を増やして貰ってください。 -- 仮想制御機構の名前 (VRTCTL パラメーター) または仮想装置の名前のリスト (VRTDEV パラメーター) のいずれかを指定して、要求をやり直してください。 2. プリンターの telnet5250 を再度有効にしてください。 3. エラーがまだ存在する場合には、ホストシステムの管理者に報告して下さい。 <p>詳細は、ホストシステムのメッセージ ID:CPF8940 を参照して下さい。</p>

SCS システムの構成

主操作員は、印刷装置の機能に関して、いくつかの選択を行います。特定の印刷環境に適合するためには、印刷装置を構成することが必要です。この章では、主操作員が APW/APPW モードを使用するときに必要な構成項目について説明します。

この章は、いくつかの節に分かれています。各節では、メニューに同じグループとして表示される構成可能な項目を説明しています。

- 88ページの『接続機構の構成』
- 128ページの『AS/400 システム構成例』
- 129ページの『アプリケーションおよびユーティリティー』
- 136ページの『IPDS / SCS の切り替え』

構成に加えた変更のなかで特定の設定は、再始動しないと有効になりません。そのような変更を行うと、印刷装置を再始動するように指示するメッセージが表示されます。印刷装置の再始動は、メッセージが表示された直後に行っても、後で行っても構いません。

重要

- APW/APPW モードを使用するには、以下の手順でシステムを構成します。
 1. LAN ケーブルを接続してください。
 2. 接続機構（アダプター）の構成（「第 7 章 IPDS モードの構成」88ページ参照）
 - イーサネット（98ページ参照）
 - トークンリング（91ページ参照）
 3. SCS の構成（134ページ参照）
 4. Telnet5250 の構成（126ページ参照）
- AS/400 システムに関して
TCP/IP に関して、最新の PTF を適用してください。

システム構成設定の流れ

システムと接続するためのプリンターの構成は、以下の流れになります。

SCS システム構成

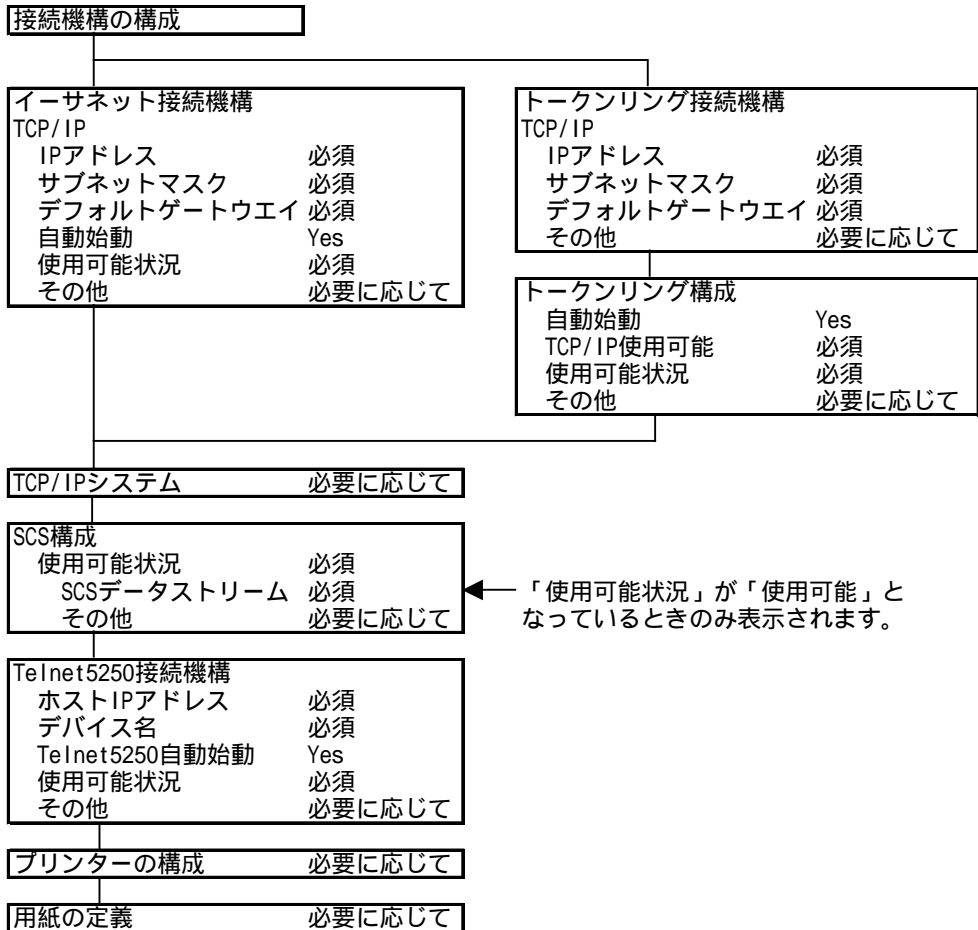


図 20. SCS システム構成手順

接続機構の構成

使用できるホスト接続機構には、以下のものがあります。

- イーサネット TCP/IP
- トークンリング TCP/IP

印刷装置が通信に使用するパラメーターを定義することが必要です。この構成に必要な情報は、ローカルエリア・ネットワーク (LAN) またはネットワークの管理者に確認してください。

下図は、接続メニューの概要を示しています。図の後に、Telnet5250 構成パラメーターの一覧表を示し、パラメーターを設定するための手順を説明しています。印刷装置メニューには、物理的に接続されている接続機構だけが表示されます。

この節には、以下のものが含まれています。

- 125ページの『Telnet5250 接続の概要』
- 126ページの『Telnet5250 接続機構のセットアップ』
- 126ページの『Telnet5250 接続機構セットアップの入力』

以下の構成については、「第7章 IPDS モードの構成」を参照してください。

- 『TCP/IP システム』(90ページ)
- 『TCP/IP システム接続機構構成の入力』(90ページ)
- 『トークンリング接続機構 - 構成情報』(91ページ)
- 『トークンリング接続機構構成の入力』(91ページ)
- 『トークンリング TCP/IP 接続機構 - 構成情報』(93ページ)
- 『トークンリング TCP/IP 接続機構構成の入力』(93ページ)
- 『イーサネット接続機構 - 構成情報』(98ページ)
- 『イーサネット接続機構構成の入力』(98ページ)

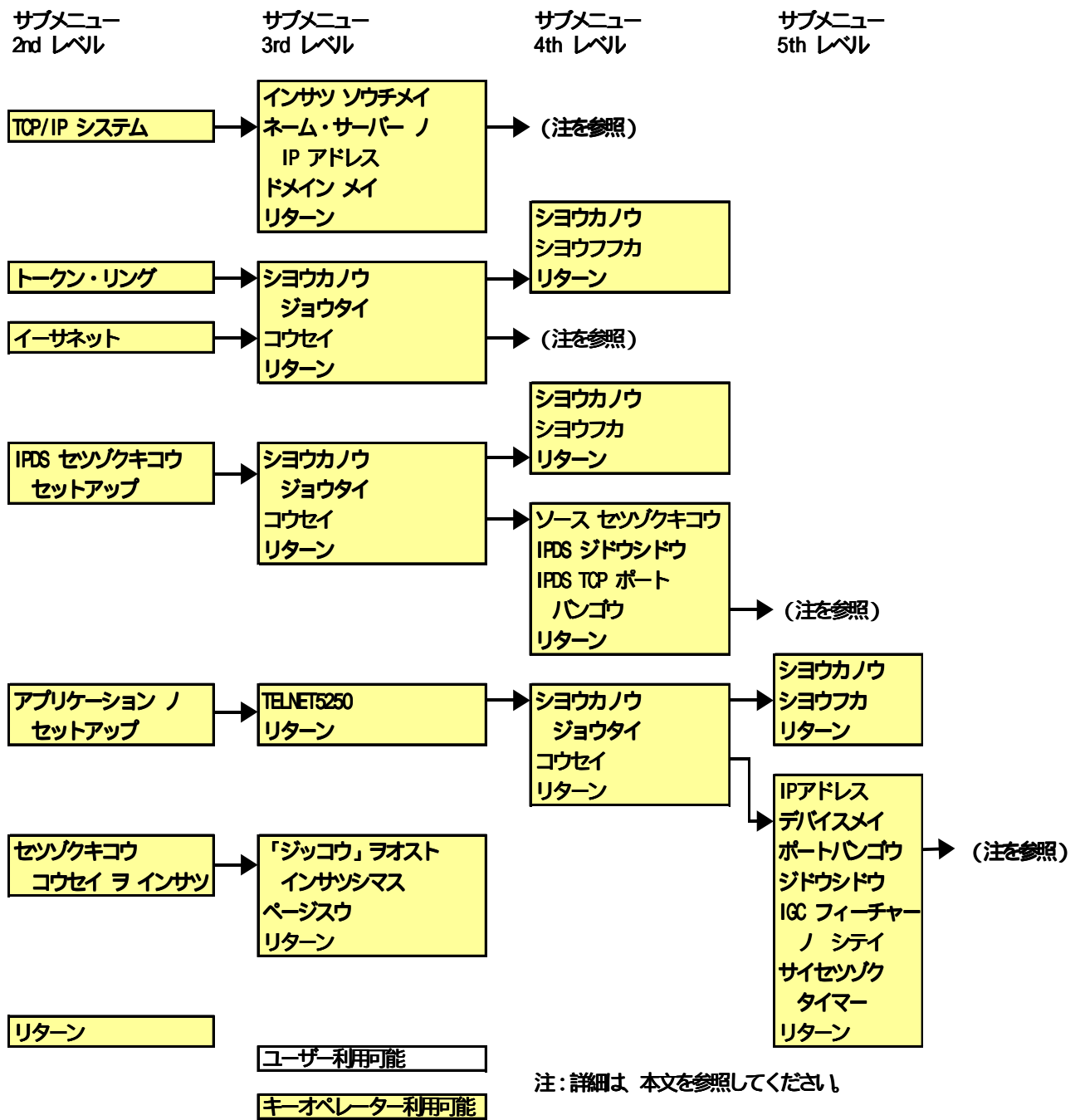


図 21. 接続機構メニュー

Telnet5250 接続の概要

Infoprint 250 は、TCP/IP プロトコルでの Telnet Client 機能の標準サポートにより AS/400 Telnet Printer Pass-Through Mode (TPPT)を使用して LAN 経由で直接 AS/400 に接続できます。

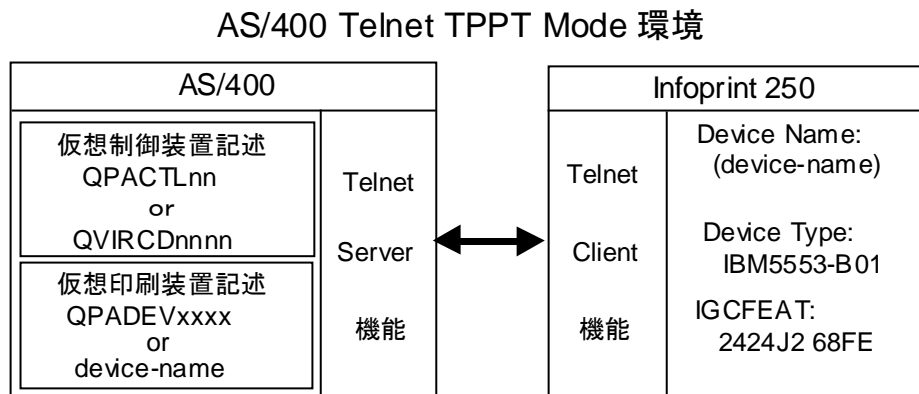


図 22. AS/400 TPPT モード

1. AS/400 Telnet 関連システム・コマンド

- a) STRTCPSVR (Start TCP/IP Server) コマンド
Telnet Server 機能を QSYSWRK サブシステム上に起動する
- b) CHGTELNA (Change Telnet Attributes) コマンド
AUTOSTART パラメーターにより TCP/IP 開始時に自動的に Telnet Server 機能を開始させるかどうかを設定する。
- c) CHGSYSVAL (Change System Value) コマンド
QAUTOVRT システム値により自動構成で作成可能な仮想装置の最大数を設定する。

2. AS/400 構成記述の作成

Infoprint 250 を仮想印刷装置として Telnet に接続するためには以下の 2 つの方法があります。

- a) 自動構成による接続
AS/400 上で TCP/IP が起動していることを確認後、Infoprint 250 にネットワーク・ケーブルを接続し Infoprint 250 の電源をいれる。
仮想制御装置記述 QPACTLnn と仮想印刷装置記述 QPADEVxxxx が自動構成により作成される。
- b) 印刷装置名の設定後、自動構成による接続
Infoprint 250 のオペレーター・パネル・メニューでデバイス名を入力後、自動構成を行う。
仮想制御装置記述 QVIRCDnnnn と仮想印刷装置記述 device-name が自動構成により作成される。

注：詳細情報、追加情報については、「AS/400e TCP/IP Configuration and Reference Version 4」(SC41-5420)の『第6章 Telnet Server』Telnet Printer Pass-Through Modeの項を参照してください。

Telnet5250 接続機構のセットアップ

次の表は、すべての構成パラメーター、各パラメーターの意味、および各パラメーターの選択値を表示しています。デフォルトにはアスタリスク * がついています。

表 33. Telnet5250 接続機構の構成パラメーター

構成パラメーター	説明	選択値
使用可能状況	接続機構を使用可能または使用不可にします。	使用可能または*使用不可
ホスト IP アドレス	AS/400 の IP アドレスを入力	数値の形式は、 xxx.xxx.xxx.xxx
Telnet5250 自動始動	印刷装置を始動したときに、Telnet5250 を自動的に使用可能にするかどうかを指定します。	YES または *NO
再接続タイマー	時間が設定されていると、ホスト側からの切断（オンライン LED 消灯）後、設定時間が経過すると、再接続動作を行います。 再接続に成功すると、オンライン LED が点灯します。失敗した場合には、切断が失敗してから再度設定時間が経過するまで待ち、接続動作を行ない、以降成功するまでもしくは、オペレーターパネルより TELNET5250 を使用不可もしくは再接続タイマーが無効とされるまで繰り返します。 Telnet5250 自動始動が YES の時のみ有効です。	*DISABLE 5 分 10 分 15 分 20 分 25 分 30 分
デバイス名	接続機構のデバイス名を指定します。指定しない場合は、ホストから自動的に割り当てられます。	最大 10 字の英数字 QPADEVxxxx
ポート番号	接続機構の TCP ポート番号を指定します。 印刷装置構成で指定されるポート番号は、ホストシステムで割り当てられているポート番号と一致しなければなりません。	数値の形式は、 xxxxxx 1 ~ 65535 *23

Telnet5250 接続機構セットアップの入力

以下に、Telnet5250 接続機構のセットアップの手順をステップごとに示します。
セットアップを入力するには、次のようにします。

1. 「印刷中断」キーを押して、現在の印刷ジョブを一時的に停止し、印刷装置を停止状態にします。
2. 「メニュー」キーを押して、メニューモードに入ります。
3. 「セツゾクキコウ」メニューまでスクロールし、「実行」キーを押します。
4. 主操作員のパスワードが設定されている場合は、「キーオペレーターパスワードラ ニュウリョクシテクダサイ」が表示されます。「実行」キーを押して、キーボードにアクセスします。キーボードを使用して、パスワードを入力します。
5. 「TELNET5250」サブメニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。
6. 「コウセイ」サブメニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。
7. 「IP アドレス」で、「実行」キーを押します。数字キーボードが表示されます。キーボードを使用して、アドレスを入力します。入力が終わったら、「実行」キーを押します。
8. 選択項目をスクロールします。「実行」キーを押して、選択します。「実行」キーを再度押して、サブメニューに戻ります。

9. 「ジドウスタート」サブメニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。
10. 選択項目をスクロールします。「実行」キーを押して、選択します。「実行」キーを再度押して、サブメニューに戻ります。
11. 「デバイスメイ」サブメニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。数字キーボードが表示されます。キーボードを使用して、デバイス名（最大 10 文字）を入力します。入力が終わったら、「実行」キーを押します。
12. 「実行」キーを 2 度押して、サブメニューに戻ります。
13. 「シヨウカノウ ジョウキョウ」までスクロールして、「実行」キーを押します。
14. 「シヨウカノウニスル」までスクロールします。「実行」キーを押します。
15. 「メニュー」キーを押して、メニューモードを終了します。
16. 「印刷」キーを押して、印刷装置を印刷可能にし、印刷を継続します。

AS/400 システム構成例

プリンターはシステム構成後に、自動的に AS/400 システムに接続されます。そのときに、AS/400 システム上では以下の構成（サンプル）になっています。

```

DEVICE DESCRIPTION . . . . . :      DEVD          QPADEV0001
OPTION . . . . . :                OPTION          *ALL
CATEGORY OF DEVICE . . . . . :                *PRT

DEVICE CLASS . . . . . :          DEVCLS          *VRT
DEVICE TYPE . . . . . :          TYPE            5553
DEVICE MODEL . . . . . :          MODEL           B01
ADVANCED FUNCTION PRINTING . . . :          AFP            *NO
ONLINE AT IPL . . . . . :          ONLINE          *NO
ATTACHED CONTROLLER . . . . . :        CTL          QPACTL01
FORM FEED . . . . . :            FORMFEED         *CONT
SEPARATOR DRAWER . . . . . :        SEPDRAWER       *FILE
SEPARATOR PROGRAM . . . . . :        SEPPGM          *NONE
  LIBRARY . . . . . :
PRINTER ERROR MESSAGE . . . . . :      PRTERMSG       *INQ
MESSAGE QUEUE . . . . . :          MSGQ            QSYSOPR
  LIBRARY . . . . . :                *LIBL
IMAGE CONFIGURATION . . . . . :        IMGCFG          *NONE
DBCS FEATURE . . . . . :          IGCFEAT
  DEVICE FEATURES . . . . . :                2424J0
USER-DEFINED OBJECT . . . . . :        USRDFNOBJ       *NONE
  OBJECT TYPE . . . . . :                *NONE
DATA TRANSFORM PROGRAM . . . . . :      USRDTATFM       *NONE
USER-DEFINED DRIVER PROGRAM . . . :      USRDRVPGM       *NONE
DEPENDENT LOCATION NAME . . . . . :      DEPLOCNM       *NONE
ALLOCATED TO:
JOB NAME . . . . . :                QPADEV0001
  USER . . . . . :                QSPLJOB
  NUMBER . . . . . :                015319
TEXT . . . . . :                    TEXT            DEVICE CREATED FOR AS400.

USER-DEFINED OPTIONS . . . . . :        USRDFNOPT

```

図 23. AS/400 システム構成例

アプリケーションおよびユーティリティー

次の図は、アプリケーションおよびユーティリティー・メニューの概要を示しています。このセクションでは、以下の事項について説明しています。

- 『ユーザー定義文字』
- 『SCS の構成』

アプリケーションとユーティリティ・メニュー

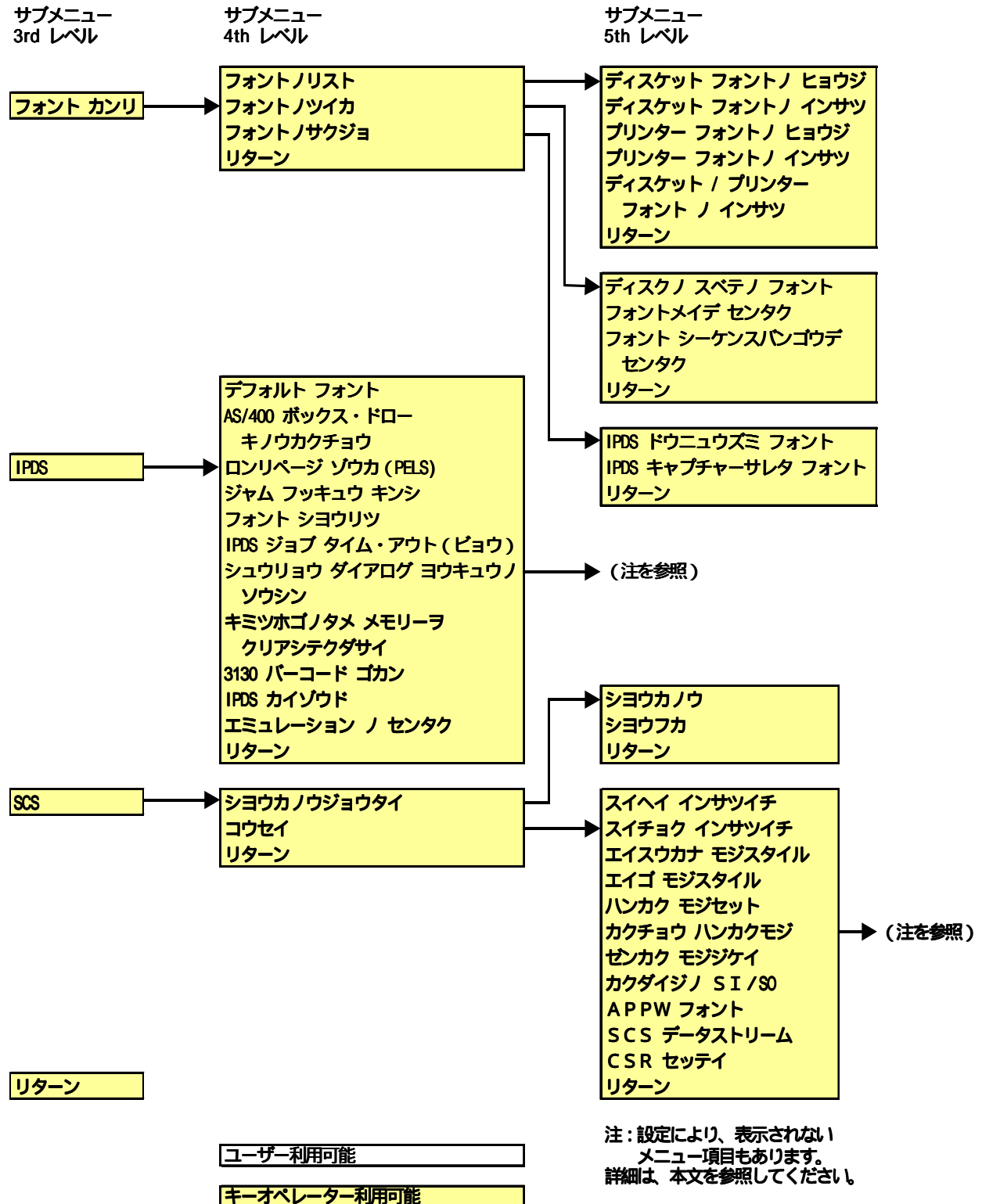


図 24. アプリケーションとユーティリティ・メニュー

ユーザー定義文字

ユーザー定義文字ロードユーティリティでは、以下のことが行えます。

- **ユーザーフォントの登録**

- APPW モード：3 種類（24 x 24, 32 x 32, 40 x 40）
- APW モード：2 種類（32 x 32）または、（24 x 24）

- **ユーザー定義文字セットのロード**

ユーザー定義文字を使用するには、事前にプリンターへのユーザー定義文字のロードが必要です。これには、ロードユーティリティが必要となります。（ロードユーティリティは、弊社ホームページからダウンロード可能です。）

APW/APPW モードでユーザー定義文字を使用する場合は、ユーザーが文字作成ユーティリティ（CGU）を使用して作成したユーザー定義文字セットを事前にプリンターにロードすることにより、出力可能となります。

参考資料:

ADTS/400 文字作成ユーティリティ(CGU), SC88-5196。

ここでは、ロードの方法について説明します。

- **ユーザー定義文字セット**

ユーザー定義文字セットは、ユーザーが CGU で作成するもので、CGU は 24 ドット x 24 ドットおよび 32 ドット x 32 ドットの 2 種類の文字セットをサポートしています。APW に関しては、32 ドット x 32 ドット、24 ドット x 24 ドットがサポートされます。（24 ドット x 24 ドットの場合はプリンターで自動的に解像度変換された状態で印刷されますので、印字品質は悪くなります。）

APPW モードでは、さらに 40 ドット x 40 ドットの文字セットが使用可能になります。

LODPPW（文字ロード）コマンドの IGCSIZE パラメーターに 40 を指定すると、32 ドット x 32 ドットの文字が 40 ドット x 40 ドットに拡大されてロードされます。

従って、APPW の使用により、3 種類の文字セットを持てることになります。

Infoprint 250 は、合計 6205 文字までがロード可能です。

LODPPW (文字ロード) コマンド

ユーザー定義文字セットをロードするには、LODPPW コマンドを使用します。ここでは、コマンド・パラメーター、コマンドの入力について説明します。

コマンド・パラメーター

ここでは、構文図にでてくるコマンド・パラメーターについて説明します。(文中で下線が引かれた値が省略時の値です。)

DEV パラメーター： 出力する印刷記述名を指定します。

*FILE： 出力装置は、APW/APPW 用印刷装置ファイル (QPPPPRT) に指定されている印刷記述名と同じであることを示します。

*JOB： 現ジョブに割り振られた印刷装置に出力します。

*SYSVAL： システム値に設定された印刷装置に出力します。

*出力装置名： 出力する印刷装置記述名を指定します。

注:印刷装置ファイル QPPPPRT が SPOOL=*NO で指定されているときに、DEV パラメーターに*FILE を指定すると、エラーメッセージ「APP5101 印刷装置ファイル QAPS/QPPPPRT がオープンできない」が表示され、ロードできません。その場合は、'OVRPRTF FILE (QPPPPRT) SPOOL (*YES)' と入力後、LODPPW コマンドを実行してください。

IGCSIZE パラメーター： 文字セットの大きさを指定します。大きさには、次の 3 種類があります。

24: 24 ドット x 24 ドット

32: 32 ドット x 24 ドット

40: 40 ドット x 40 ドット (APPW フィーチャーのみ)

OPTION パラメーター： 以前にロードした文字セットを削除するかどうかの指定です。

*LOAD： 新しい文字セットをロードする場合に指定します。

*CLEAR： 以前にロードした文字セットを削除する場合に指定します。

注：新しい文字セットを Infoprint 250 にロードするときは、OPTION パラメーターを*CLEAR に指定して、以前にロードした同サイズの文字セットを削除した後、OPTION パラメーターを*LOAD に指定して新しい文字セットをロードしてください。

RANGE パラメーター :

ロードする文字の範囲を開始番号・終了番号で指定します。
開始番号・終了番号の番号とは、DBCS フォント・テーブル上の
ユーザー定義文字エントリー番号を示します。たとえば、最初の
ユーザー定義可能な IBM 漢字コード'6941'は、エントリー番号 1
となります。以下に IBM 漢字コードとエントリー番号の関係を示
します。

エントリー番号	IBM 漢字コード
1	6941
2	6942
3	6943
:	:
:	:
:	:
4370	7FFE

ロード可能な文字数には、制限があります。指定しない場合は、
すべてのユーザー定義文字がロードされます。

*FIRST :

DBCS フォント・テーブル上の最初のユーザー定義文字を示します。

*LAST :

DBCS フォント・テーブル上の最後のユーザー定義文字を示します。

コマンドの入力

LODPPW コマンドは、次のいずれかの方法で入力してください。

- コマンド入力行、またはプログラマー・メニューで選択項目 5 を選択後、パラメーター付き
のコマンド全体を入力する。
- LODPPW を入力し、F4 キーを押す。

SCS 構成

以下は、SCS 構成パラメーターです。

デフォルトにはアスタリスク * が付いています。パラメーターの変更は、次のジョブから有効になります。

表 34. SCS 構成パラメーター

構成パラメーター	説明	選択値
使用可能状況	SCS を使用可能または使用不可にします。 このパラメーターを使用可能にしたときのみ、以下の構成パラメーターが表示され、設定可能となります。	使用可能 または *使用不可
スイヘイ インサツ仔	水平方向の印刷開始位置調整	8.0 mm から 25.4 mm (0.1 mm 刻み) *12.7 mm
スイョク インサツ仔	垂直方向の印刷開始位置調整	-2.0 mm ~ +2.0 mm (0.1 mm 刻み) *0.0 mm
エイリカ モジ スタイル	英数カナ文字の書体を選択します。	*ミンチヨウ (12CPI) ミンチヨウ (10CPI) ゴ シック OCR-B タテガキ ヨコハバ シュクショウモジ クーリ エリート
エイモジ モジ スタイル	英数文字の書体を選択します。	*ミンチヨウ (12CPI) ミンチヨウ (10CPI) ゴ シック OCR-B タテガキ ヨコハバ シュクショウモジ クーリ エリート ゴ シック (12CPI) ゴ シック-イタリック エリート-イタリック ゴ シック (15CPI) ゴ シック (20CPI)
ハンカ モジ セット	英数カナ文字が英数文字のセットを選択します。	*エイリカ モジ セット エイ モジ セット
カチヨウ ハンカモジ	拡張半角文字を印刷するかしないかを選択します。	*インサツ スル インサツ シナイ
ゼンカ モジ ジケイ	全角文字の字形の種類を選択します。	IBM ジケイ IBM ジケイ-90 ねか行行キヨ *エイイ ジケイ
カクダ イジノ SI/SO	拡大指定時の SI/SO の処理を設定します。	*カクダ イ スル カクダ イ シナイ
APPW フォント	APPW 選択時に、標準 (アウトライン・フォント) または、IBM 5337 のビットマップ・フォントを選択します。	*ヒョウジ ユン 5337 フォント ヨク 1 ヨク 2
SCS データストリーム	APW または、APPW を選択します。	*APW APPW
CSR モード	予約済み	

SCS 構成パラメーターの入力

SCS 構成パラメーターを入力するには、以下のようにします。

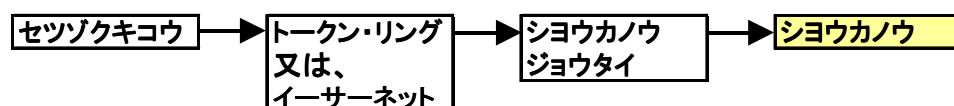
1. 「印刷中断」キーを押して、現在の印刷ジョブを一時的に停止し、印刷装置を停止状態にします。
2. 「メニュー」キーを押して、メニューモードに入ります。
3. 「セットアップ」メニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。
4. 主操作員のパスワードが設定されている場合は、「キーオペレーターパスワードラ ニュウリョクシテクダサイ」が表示されます。「実行」キーを押して、キーボードにアクセスします。
5. キーボードを使用して、パスワードを入力します。
6. 「アプリケーショント ユーティリティー」サブメニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。
7. 「SCS」サブメニューまでスクロールして、「実行」キーを押します。
8. 構成するサブメニュー項目までスクロールして、「実行」キーを押します。
9. 必要な値までスクロールするか、キーボードで選択値を入力します。「実行」キーを押して、選択します。
10. 「実行」キーを2度押して、サブメニューに戻ります。
11. 「シヨウカノウ ジョウキョウ」までスクロールして、「実行」キーを押します。
12. 「シヨウカノウニスル」までスクロールします。「実行」キーを押します。
13. 「メニュー」キーを押して、メニューモードを終了します。
14. 「印刷」キーを押して、印刷装置を印刷可能にし、印刷を継続します。

IPDS / SCS の切り替えについて

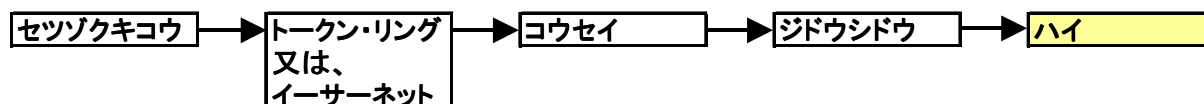
IPDS と SCS は、同時には動作できません。IPDS を使用する場合には、SCS を無効にしてから、また、SCS を使用する場合には、IPDS を無効にしてから、有効にする必要があります。

接続機能の有効

1. 接続機構の構成を行ない、アタッチメントを有効にする（SCS を使用する場合には、TCP/IP 接続で設定する必要があります）。

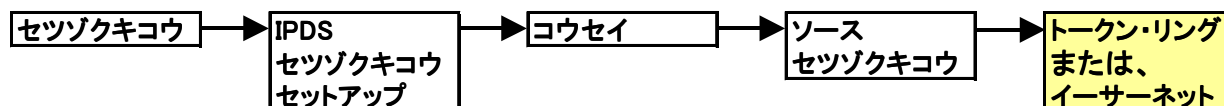


2. 接続機構の自動始動を設定する。

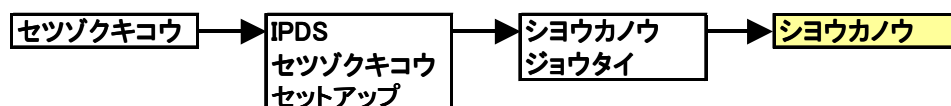


IPDS を無効 有効

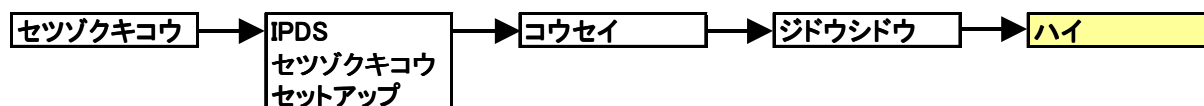
1. SCS データストリームが有効の場合、SCS を無効にする。“SCS の有効 無効” 参照。
2. IPDS で使用する接続機構を選択する。



3. IPDS を使用可能にする。



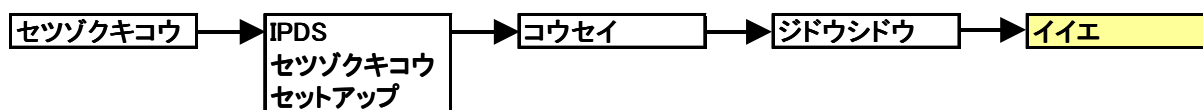
4. IPDS の自動始動を有効にする。



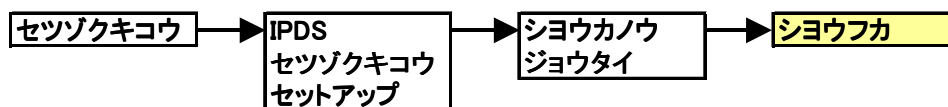
5. 以上で IPDS は、有効になります。

IPDS を有効 無効

1. IPDS の自動始動を無効にする。



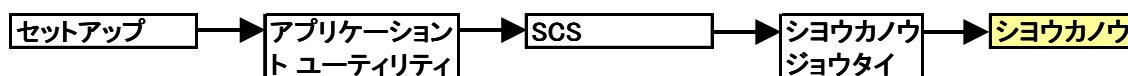
2. IPDS を無効にする。



3. 以上で IPDS は無効になります。

SCS の無効 有効

1. IPDS が有効に設定されている場合は無効にします。“IPDS を有効 無効” 参照。
2. SCS を有効にします。



3. telnet5250 を有効にします。



4. telnet5250 の自動始動を有効にします。



5. 以上で SCS が有効になります。

SCS の有効 無効

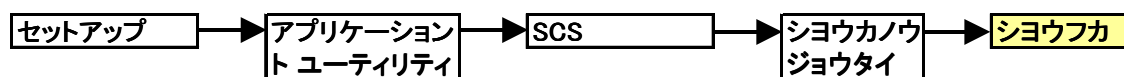
1. telnet5250 の自動始動を無効にします。



2. telnet5250 を無効にします。



3. SCS を無効にします。



4. 以上で SCS が無効になります。